

埼玉森林管理事務所長が語る

1 埼玉森林管理事務所の紹介

埼玉森林管理事務所（旧秩父営林署）は、明治22年に東京大林区署秩父派出所として設置されたのが始まりで、その後、明治24年に秩父小林区署となり、明治40年には浦和小林区署を統合し埼玉県一円を管轄することとなり、大正13年に秩父営林署となりました。

平成11年には現在の埼玉森林管理事務所に改称し、秩父市、ときがわ町及び毛呂山町の1市2町に存する約1万2千㌦の国有林を管理経営しています。

埼玉所管内の国有林は、そのほとんどが埼玉県の西部、雲取山や甲武信ヶ岳、三国山など2千メートル級の山々が連なる、群馬県・長野県・山梨県・東京都との境にあり、荒川やその支流の源流部に位置していることから、首都圏の水源地として重要な役割を担っています。

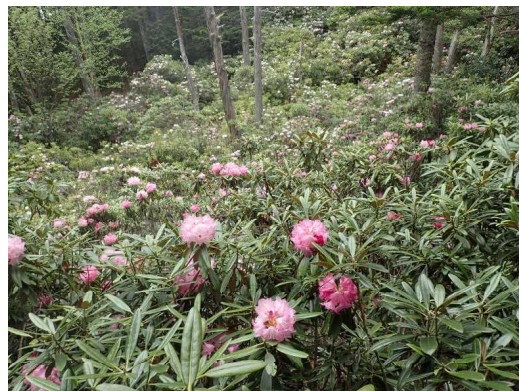
また、その8割が秩父多摩甲斐国立公園に指定されており、コメツガやシラベ等の天然林に覆われ、カモシカやツキノワグマ・ニホンザル・ニホンジカ等の哺乳類のほか、ワシ・タカ類やアカショウビンなど希少な鳥類も生息しています。

関東森林管理局では、森林生物遺伝資源保存林や植物群落保護林、秩父山地緑の回廊に設定し適切に保存、保護を図っています。

登山者も多く、春の新緑に始まり、5月下旬から6月上旬にかけての十文字峠のシャクナゲ、10月～11月のコメツガやモミの緑に映える紅葉、冬の雪をいただく富士山の遠望も見逃せないポイントです。ただ、近年、遭難事故も多くなっており、しっかりした装備で自然を堪能していただきたいと思いません。



十文字峠植物群落保護林



十文字峠のシャクナゲ

埼玉森林管理事務所のある秩父市大野原は、今から約1700万年前に誕生し、1500万年前に消滅した古秩父湾があったところで、パレオパラドキシアという、今から約2000万年前から1100万年前まで生きていた絶滅哺乳類の化石が発掘された場所の近くでもあります。

その化石が今年、「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」として国指定天然記念物に指定されました。

大昔、秩父に海が広がっていたなど、いまでは想像できませんが、古生代から中生代にかけて南方海底で成長した珊瑚などが堆積してできた石灰岩が、プレートの移動で北上しアジア大陸に衝突、プレートの沈み込みと同時に陸上に押し上げられた堆積岩が、秩父市と秩父郡横瀬町の境にある武甲山を形成しているとのこと。

武甲山は、古来より信仰の対象の山で、山頂には御嶽神社が祀られています。山名の由来については、日本武尊が、自らの武具・甲冑をこの山の岩室に奉納し、戦勝祈願したという伝説が元禄時代から語り継がれ、定着したとの説が有力です。

2 その武甲山（1,304m）についてちょっと横道に

秩父に入ってすぐ目につくのが、階段状に削られた武甲山ではないでしょうか。

秩父の産業の中心を担ってきたのが、武甲山から産出される石灰から製造されるセメントです。

秩父の石灰産業は江戸時代から存在していたようですが、製法が稚拙であったことや、原石には恵まれながらも山間部にある秩父の地理的条件に阻まれ、その搬出が困難だったことなどから、産業としては発達していなかったようです。大正12年に秩父セメント(株)(現秩父太平洋セメント(株))が設立され、武甲山の石灰の生産も飛躍的に増大し、特に高度経済成長時代から1970年代にかけてセメントの需要が大幅に増加し、武甲山の石灰も増産が図られ、関東市場をはじめ、遠くは北陸・近畿まで運ばれていたそうです。



武甲山と羊山公園の芝桜

しかし、90年代に入ると競争が激しくなり業界の再編も行われ、以降秩父でのセメントの生産量も減少していきませんが、現在でも武甲山では、武甲鉱業(株)、菱光石灰工業(株)、秩父太平洋セメント(株)の3社が石灰石の採掘を続けており、採掘された石灰は、武甲山の縦坑から日高市の工場まで、長さ23Kmあまりのベルトコンベアーで運ばれています。

石灰石はわが国が輸入に頼らない貴重な地下資源で、その特性に応じて、セメントや骨材などの建設材料だけでなく、農業、食品、医薬品、水処理、公害防止の中和剤など広い分野で活用され、無限の可能性が期待されています。

その石灰岩を山体にまとう武甲山は、地域にとってまさに宝の山です。

3 地域と国有林のつながり

埼玉森林管理事務所では、植栽したスギやヒノキが健全に育つように下刈りや除伐、保育間伐等を行うほか、林道の新設・保守点検整備、山地の崩壊等の予防や崩壊地を復旧する治山事業等を実施しています。

また、国有林野と民有地との境界を保全する境界管理、伐採時期に達した樹木の調査、

国有林野の貸付地等の点検等も行っています。

民有林のサポートなど、地域の森林・林業の再生への貢献へも取り組んでいます。

秩父地域は、埼玉県内で森林率の一番高い地域で8割を超えていますが、その森林は傾斜が急で露岩や沢など入り組んだ地形となっていることから、伐期に達したスギやヒノキの搬出が進んでいない現状にあります。

国有林では、厳しい地形条件の下、カーブの付け方の工夫や、丸太を用いた水処理、根株を用いた路肩の補強など、現地の材料を利用した路網の作設により、車両系機械による搬出に取り組んでおり、平成25年度からは毎年、国有林をフィールドとして、埼玉県・秩父農林振興センターなどの関係者と現地で研修を実施しています。

参加者からは、現地で実際に路網の線形を検討したり、搬出後の路網が確認できる、水処理の方法などほかの現場でも応用できることが多い等の声をいただき、好評を得ています。



H27 現地研修会（路網検討）

列状間伐についても、関係者の関心が高いことから、現地検討会の開催を検討しているところです。

秩父地域では、国有林・民有林を問わず、ニホンジカやクマによる樹木の剥皮被害が増加しています。

このため国有林においては、ニホンジカやクマが、植物群落保護林等に加害しないよう獣害防止柵を設置するほか、人工林のスギ・ヒノキにネットを巻く単木保護を実施しています。



H27 緑の回廊樹木保護ネット設置

また、緑の回廊の笠取山周辺において、ニホンジカによる樹木の剥皮による立ち枯れ木が多発していることから、ボランティアを募って剥皮防止ネットを取り付ける活動を毎年実施しています。参加者は25名程度で、笠取小屋から現地までネット400枚を各人手分けして運搬し、幹に巻き付ける重労働ですが、皆さん昼食時間も忘れて作業していただきます。また、道中のバスの中では、森林・林業・動植物等に関する勉強会を実施するなど向学心が旺盛で、何年にもわたって参加して下さる方もおり、感謝感激です。

そのほか、地元中学校が行う体験チャレンジ実習で、中学生にネット巻きや国有林の仕事を経験してもらい、森林や林業の現状について理解を深めてもらう活動もしています。

昨年度からは、埼玉県による指定管理鳥獣捕獲事業が国有林も含めて実施されており、

銃器によるニホンジカの捕獲が行われています。国有林としては、林道の通行や入林について関係自治体と協力しあっているところです。

また、地域貢献・環境教育等の面から、森林教室や各種イベントを実施するとともに、自治体等のイベントに積極的に参加し、国有林や林業の現状を知っていただく活動も行っています。

地域の方々に国有林を知っていただくイベントとして、「リース作り」があります。

実施する日はクリスマス時期に設定し、市の広報を通して参加者を募集しています。

リースの台となるぶどう蔓や飾り付けに使う木の実等を集める苦労はありますが、参加者の完成後の笑顔が苦労を吹き飛ばしてくれます。皆さん独創的な作品を造って、大事に持って帰られます。



H27 リース作り

そのほか、地元公民館主催の木工教室や各種イベントへの協力など、地域と一体となった取組を積極的に行っています。

どのイベントも永年続いており、異動してきた職員にとって、関係自治体等地元関係者と交流を深める場にもなっています。



H27 木が香る秩父フェスティバル

4 結び

関東森林管理局には17の森林管理署と3つの支署、3つの森林管理事務所があり、それぞれの地域の国有林を管理経営していますが、木材の生産が活発な地域もあれば、水源の涵養や国土保全などが主な地域もあります。

地域が抱えている課題や要望等も様々であり、社会経済の変化とともに変遷してきていますが、国有林野の各種公益的機能を損なうことなく後世に引き継いでいくことを前提として、各地域の課題や要望等の解決に貢献していくことが重要だと考えます。

埼玉森林管理事務所は、地域との情報交換を密に行いながら、国有林のフィールドを活用した検討会等の取組を積極的に実施し、地域の森林・林業・木材産業の発展に貢献して参りたいと考えています。